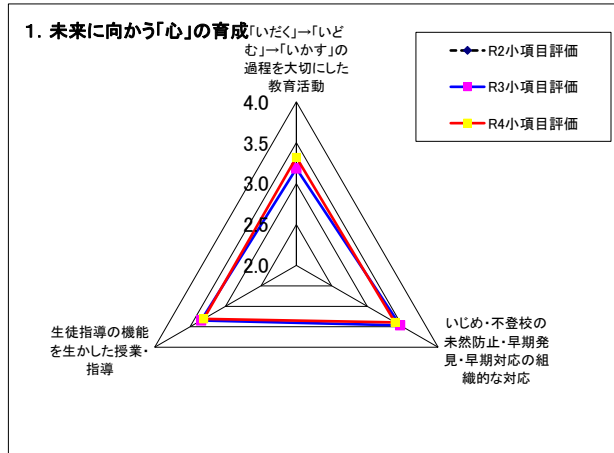


1. 未来に向かう「心」の育成

	「いどく」→「いどむ」→「いかす」の過程を大切に した教育活動	いじめ・不登校の未然防 止・早期発見・早期対応 の組織的な対応	生徒指導の機能を生か した授業・指導
R2小項目評価			
R3小項目評価	3.19	3.46	3.34
R4小項目評価	3.32	3.39	3.31

大項目評価	R2	R3	R4
		3.33	3.34
		B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

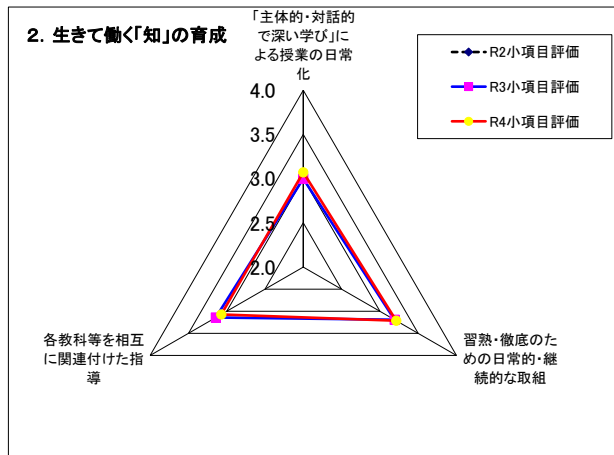


2. 生きて働く「知」の育成

	「主体的・対話的で深い 学び」による授業の日常 化	習熟・徹底のための日常 的・継続的な取組	各教科等を相互に関連 付けた指導
R2小項目評価			
R3小項目評価	3.00	3.19	3.14
R4小項目評価	3.07	3.21	3.07

大項目評価	R2	R3	R4
		3.11	3.12
		B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

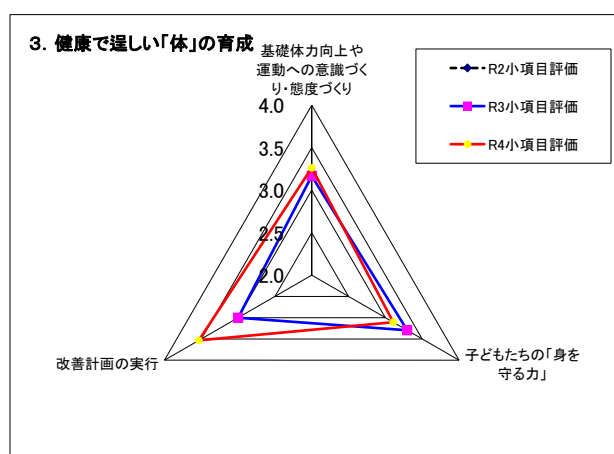


3. 健康で逞しい「体」の育成

	基礎体力向上や運 動への意識づくり・ 態度づくり	子どもたちの「身を 守る力」	改善計画の実行
R2小項目評価			
R3小項目評価	3.17	3.30	3.00
R4小項目評価	3.26	3.11	3.53

大項目評価	R2	R3	R4
		3.16	3.26
		B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

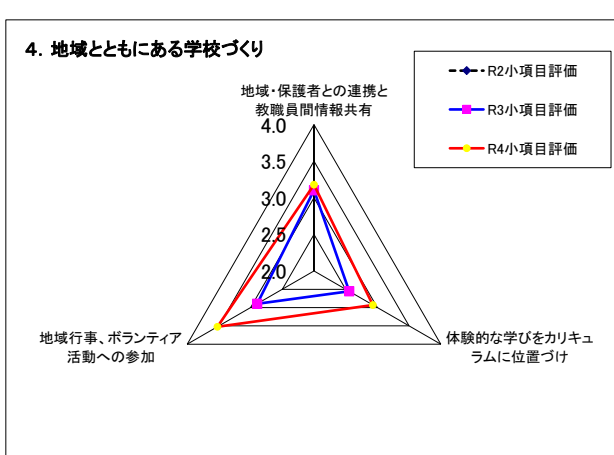


4. 地域とともにある学校づくり

	地域・保護者との連携と 教職員間情報共有	体験的な学びをカリキ ュラムに位置づけ	地域行事、ボランティア 活動への参加
R2小項目評価			
R3小項目評価	3.10	2.56	2.90
R4小項目評価	3.18	2.93	3.52

大項目評価	R2	R3	R4
		2.86	3.18
		B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

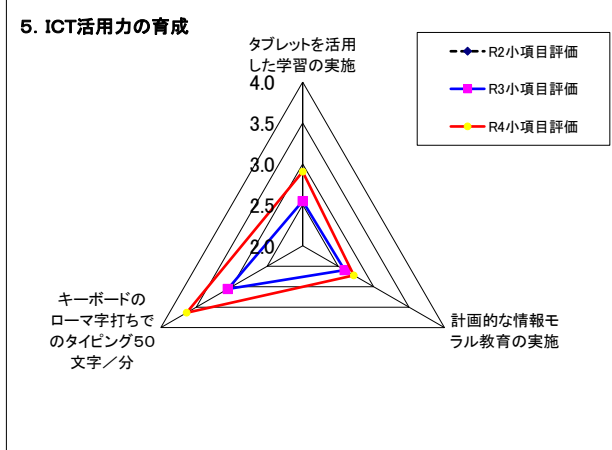


5. ICT活用力の育成

	タブレットを活用した学習の実施	計画的な情報モラル教育の実施	キーボードのローマ字打ちでのタイピング50文字/分
R2小項目評価			
R3小項目評価	2.55	2.59	3.06
R4小項目評価	2.90	2.72	3.64

	R2	R3	R4
大項目評価		2.70	3.00
		B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

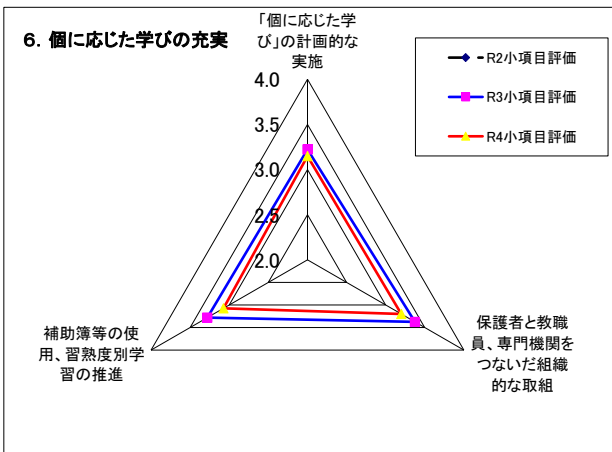


6. 個に応じた学びの充実

	「個に応じた学び」の計画的な実施	保護者と教職員、専門機関をつないだ組織的な取組	補助簿等の使用、習熟度別学習の推進
R2小項目評価			
R3小項目評価	3.22	3.38	3.28
R4小項目評価	3.15	3.20	3.07

	R2	R3	R4
大項目評価		3.29	3.13
		B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

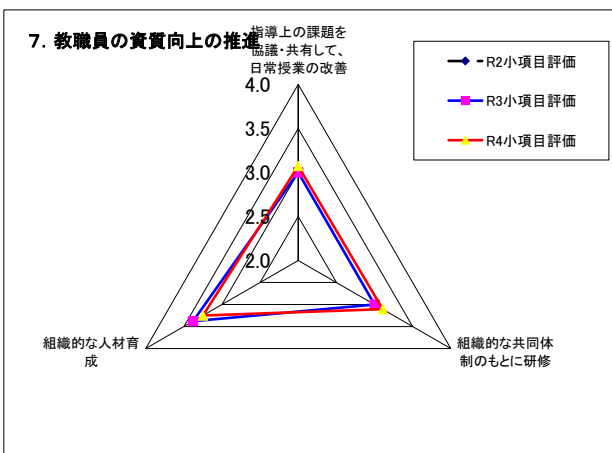


7. 教職員の資質向上の推進

	指導上の課題を協議・共有して、日常授業の改善	組織的な共同体制のもとに研修	組織的な人材育成
R2小項目評価			
R3小項目評価	3.00	3.00	3.38
R4小項目評価	3.07	3.11	3.25

	R2	R3	R4
大項目評価		3.13	3.13
		B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

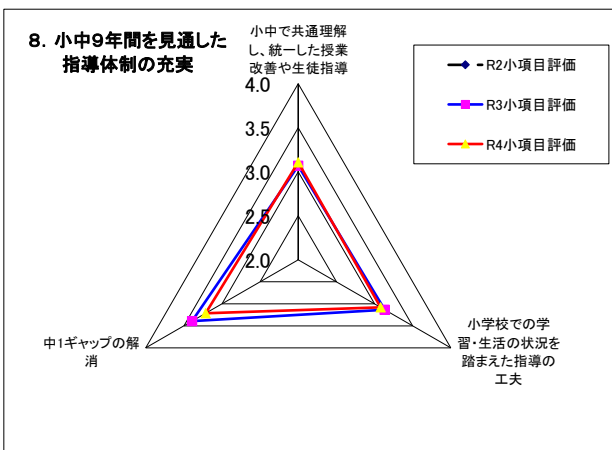


8. 小中9年間を見通した指導体制の充実

	小中で共通理解し、統一した授業改善や生徒指導	小学校での学習・生活の状況を踏まえた指導の工夫	中1ギャップの解消
R2小項目評価			
R3小項目評価	3.07	3.13	3.39
R4小項目評価	3.11	3.08	3.21

	R2	R3	R4
大項目評価		3.20	3.14
		B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

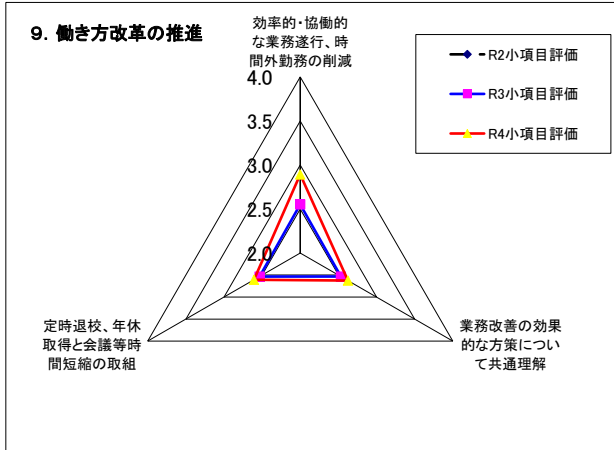


9. 働き方改革の推進

	効率的・協働的な業務遂行、時間外勤務の削減	業務改善の効果的な方策について共通理解	定時退校、年休取得と会議等時間短縮の取組
R2小項目評価			
R3小項目評価	2.55	2.53	2.53
R4小項目評価	2.89	2.63	2.61

	R2	R3	R4
大項目評価		2.54	2.72
		B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D

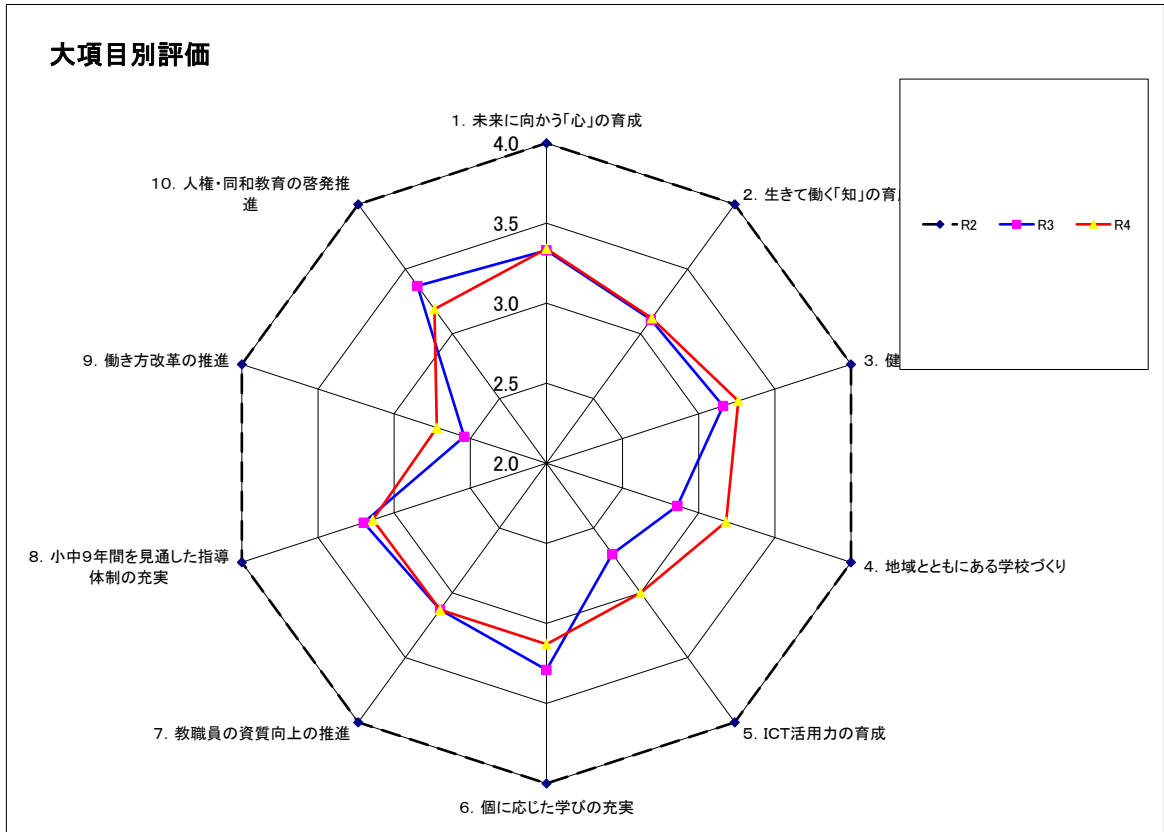
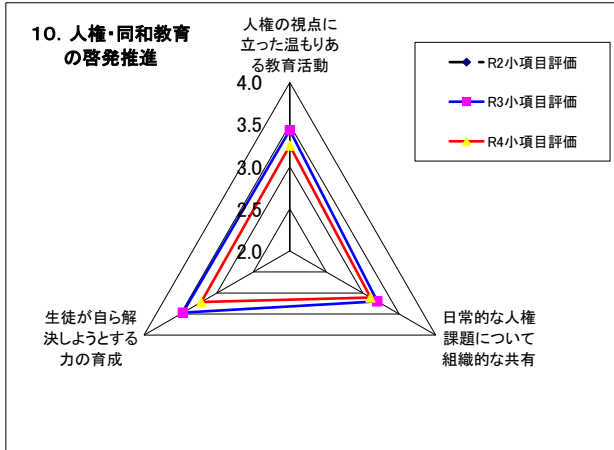


10. 人権・同和教育の啓発推進

	人権の視点に立った温もりある教育活動	日常的な人権課題について組織的な共有	生徒が自ら解決しようとする力の育成
R2小項目評価			
R3小項目評価	3.43	3.20	3.47
R4小項目評価	3.25	3.11	3.21

	R2	R3	R4
大項目評価		3.37	3.19
		B	B

4 ≥ A > 3. 5 ≥ B > 2. 5 ≥ C > 1. 5 ≥ D



R4学校自己評価について

令和4年12月実施
小郡市立小郡中学校

※数値は R3 年度数値 → □の数字は、R4 年度数値を表す。

評価の目安 $4 \geq A > 3$ $5 \geq B > 2$ $5 \geq C > 1$ $5 \geq D$

1 未来に向かう「心」の育成 3.33 → **3.34** 評価B

○「いただく」→「いどむ」→「いかす」の過程を大切にした教育活動 3.19 → **3.32**

・学校教育目標「夢と志をもって主体的に学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」の実現に向け、「自分や集団の課題解決に向けて、粘り強く取り組む生徒」を重点目標に設定し、学校における全教育課程において①自分の行動や感情をコントロールできる生徒②お互いを認め合い、集団の一員として協働していく生徒の実現に向けた教育活動を推進している。

○いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応の組織的な対応 3.46 → **3.39**

・小郡中学校「いじめ防止基本方針」を基に、月1回の「いじめアンケート」の実施に加え、福岡県教育委員会推奨の「学校生活環境多面調査」を実施し、より詳細な生徒の実態把握に努めるとともに、人権学習等の丁寧な実施により、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めた。
・不登校の未然防止を図るための「わかる授業づくり」、「不登校予防診断チェックリスト」の実施に加え、諸事情等によって不登校兆候にある生徒の情報交換、サポート教室の実施やすでに不登校状態にある生徒と関係機関(市SSW、子育て支援課、民生・児童委員等)との連携に努めている。

○生徒指導の機能を生かした授業・指導 3.34 → **3.31**

・日常の授業において自己決定の場面設定や共感的人間関係を構築していくための集団づくり、自己存在感を味わわせることができる振り返り等に取り組んでいる。

2 生きて働く「知」の育成 3.11 → **3.12** 評価B

○「主体的・対話的で深い学び」による授業の日常化 3.00 → **3.07**

・校内の研究主題を「主体性をもって、協働しながら課題を解決できる生徒の育成」とし、副主題「基礎基本の定着と、振り返り活動の充実(ICTの活用)を通して」とし、全教科の教職員が年1回の授業研究を実施。他教科の先生方との、授業における取組に関する意見交流等を実施している。
・全国学力学習状況調査や福岡県学力調査の結果をもとに、生徒の実態把握に努め本校の課題を明らかにし、日常の授業に重点的に取り組む内容等について確認をしている。

○習熟・徹底のための日常的・継続的な取組 3.19 → **3.21**

・生徒のつまずきや習熟の程度に応じた授業の改善をどのように図るのかを研究推進委員会が中心となって協議し、協議した結果を全職員で共通理解を図る場を設定するとともに、日常的な取組を試験的に実施した。
・生徒がタブレットを効果的に活用するためのタイピングスキル向上のための取組を帰りの合唱活動ができない期間に継続的に実施した。

○各教科等を相互に関連付けた指導 3.14 → **3.07**

・各教科、道徳、総合的な学習の時間。特別活動等、日々の教育活動の関連に着目し、それぞれの効果が高まることを目指し取組を進めることができた。

3 健康で逞しい「体」の育成 3. 16 → 3. 26 評価B

○基礎体力向上や運動への意識づくり・態度づくり 3. 17 → 3. 26

・筋力を要するもの、瞬発力を要するものそして柔軟性を要するものを中心に保健体育の授業で強化を進めている。本年度の全国体力・運動能力調査（対象 中2）の結果では、男子は1種目を除いて、全国の平均値を超える結果となっている。しかしながら女子については、全種目合計は全国平均を上回っているものの、5種目が全国の平均値を下回るなど、男子と女子に結果の差がみられる。

○子どもたちの「身を守る力」 3. 30 → 3. 11

・小郡中学校防災計画に基づき、避難訓練を実施している。本年度は、車椅子を使用している生徒が入学してきたことを鑑み、避難経路等の確認をしながら避難訓練を実施した。

また通学路の危険箇所等については、4月当初の学団会で生徒同士の情報交換の場を設けている。（新型コロナがなければ、地域の公民館で区長、民生児童委員との交流を図りながら実施している。）

○日常的な生徒の生活習慣等を把握し、改善を促す取組を行う。（新項目） 3. 53

・日々の生活ノートの取組や学校生活アンケート等を実施し、生徒の生活習慣等を把握。遅刻や欠席の多い生徒の健康状態から、改善が必要な生徒については、教育相談等で指導を行った。学期末の保護者との教育相談の際にも丁寧に家庭の状況等を伺いながら改善に必要な助言等を行っている。さらにPTAにおいては「新」家庭教育宣言推進活動の取り組みとして、「早寝・早起き・朝ご飯」を実施し、保護者アンケートの結果でも、朝食の摂取率が全学年とも80%を越えるなど、良好な結果が見られている。

4 地域とともにある学校づくり 2. 86 → 3. 18 評価B

○地域・保護者との連携と教職員間情報共有 3. 10 → 3. 18

・年4回の学校運営協議会を実施し、学校教育目標について学校運営協議会委員との共通理解を深め、学校の教育活動の充実に係る内容についての協議を進めている。また、各委員の立場から地域及び保護者に対して学校教育への理解や協力について働きかけを実施していただいている。

さらに、校長のリーダーシップのもと、全教職員で地域や保護者のニーズ等の把握に努め、地域に開かれた学校づくりの実現に向けて取組を進めている。

○体験的な学びをカリキュラムに位置づけ 2. 56 → 2. 93

・1年生の地域のフィールドワークや2年生の職場体験学習、3年生の赤ちゃんふれあい体験学習など、地域の人、もの、ことに触れ、生徒一人一人の体験的な学びの場の設定を計画的に行っている。しかし、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る活動の制限の影響もあったため、「職場体験学習」での事業所での体験活動や「赤ちゃんふれあい体験学習」の赤ちゃん抱っこ体験などの実施を断念せざるを得ない活動もあったため、評価が低いものになっている。

○地域行事、ボランティア活動への参加 2. 90 → 3. 52

・本年度は、例年5月に実施しているクリーン大作戦を名称変更して小郡中学校ふるさとクリーン活動とし実施。地域にある公園等の環境を整える活動を通して、地域の方々と触れ合いながら地域に貢献できる活動を実施するとともに、ボランティアパスポート

の取組を積極的に行うなど、生徒の地域行事やボランティア活動に対する参画意識を高める取組を実施している。しかし、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る活動の制限の影響は大きく生徒のアンケートにおいても、地域の行事にあまり参加できなかったという結果が出ており、厳しい評価となっている。

5 ICT活用力の育成 2.70 → 3.00 評価B

○タブレットを活用した学習の実施 2.55 → 2.90

・本年度は、一人一台タブレットの環境が整った状況でのスタートとなり、昨年度の授業で積極的に活用した教職員の授業公開など、推進するための研修に取り組んできた。教科によっては、授業の中で毎回タブレットを活用する場面を設定する教科もあり、生徒のスキルも高まっている。しかしながら、教師のタブレット活用スキルには差がある状況はあるため、汎化していくための取組が必要である。

○計画的な情報モラル教育の実施 2.59 → 2.72

・一人一台タブレットの環境が整うとともに、生徒のICT活用に関する情報モラルの意識を高めていく必要があった。もともと計画していた年度当初の電話会社が行っている携帯スマホ教室の実施(オンラインによる)や、技術科の中での情報モラルに関する授業にあわせて、タブレットの家庭への落ち帰りやオンライン家庭学習の実施など、ことあるごとにICTの活用や情報モラルに関する啓発を実施している。

○キーボードのローマ字打ちでのタイピング50文字/分 3.06 → 3.64

・全校生徒のタブレット活用のスキルは高まっており、毎日家庭への持ち帰りの環境が整っていることから日常的な活用が進んでいる。また、タブレットにタイピング練習用のフリーソフトを設定しているので、生徒は自主的に昼休みや持ち帰りの際にタイピング練習を実施している。

6 個に応じた学びの充実 3.29 → 3.13 評価B

○「個に応じた学び」の計画的な実施 3.22 → 3.15

・一人一人の生徒について特に支援を要すると考えられる生徒の情報について、年度当初に全職員で共有する場を設け、個に応じた学びの推進について検討するとともに、学習習慣等に関するアンケートを実施し、生徒の実態把握に努めた。

○保護者と教職員、専門機関をつないだ組織的な取組 3.38 → 3.20

・特別な支援を必要とする生徒に関して、個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成し、保護者の同意の下、丁寧な支援を実施している。特別支援教育コーディネーターを中心にSC等との専門家と保護者をつなぎ、さらに必要に応じて医療機関等とつなぐ取組を行っている。

○補助簿等の使用、習熟度別学習の推進 3.28 → 3.07

・一人一人の生徒を大切にするために、評価のあり方(補助簿等の活用)について教務主幹が提起し、全職員で共通理解を図る場を設定した。また指導方法工夫改善担当を中心に、習熟度別による少人数授業やTTによる授業を計画的に実施している。

7 教職員の資質向上の推進 3.13 → 3.13 評価B

○指導上の課題を協議・共有して、日常授業の改善 3.00 → 3.07

・全国学力学習状況調査及び福岡県学力調査の結果を分析し、学校全体の課題について、研究推進委員会で確認の上、全教職員に周知を行うとともに、生徒による授業アンケートを実施し、各教科の指導における課題の把握に努めている。また、年に1回全職員が授業研究を実施し、様々な先生方に見て頂きながら、授業改善に係る助言等の交流を進めている。

○組織的な共同体制のもとに研修 3.00 → 3.11

・校内研究推進委員会を中心に、研修内容等を協議し、年間研修計画に沿って、校内研修を進

めている。また生徒や地域の実態に応じて、授業に関すること、生徒指導に関すること、危機管理に関すること、生徒の健康上留意すべき事に関すること、人権・同和教育に関すること等、必要とする研修を実施している。

○組織的な人材育成 3. 38 → 3. 25

・福岡県教育委員会が示す人材育成指標を参考に個々の教職員のキャリアステージに応じた研修を実施し、教職員相互の協働的な人材の育成に努めている。

8 小中9年間を見通した指導体制の充実 3. 20 → 3. 14 評価B

○小中で共通理解し、統一した授業改善や生徒指導 3. 07 → 3. 11

・昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小中全体での合同研修会が実施できなかったが、本年度は夏期休業中に、1回実施することができた。また生徒支援加配やまちづくり担当を中心に、情報交換等を行ってきた。

○小学校での学習・生活の状況を踏まえた指導の工夫 3. 13 → 3. 08

・新入生入学前に小中連絡会を実施し、新入生の実態について、担当学年が情報を入手し、入学後2ヶ月を経過したところで、再度連絡会を実施した。その際の情報を基に、学習における支援や学校生活における支援等について検討・修正し、丁寧な指導に当たっている。昨年度は、6月に実施予定であった2回目の連絡会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、本年度は実施することができた。

○特別な支援を必要とする生徒について中1ギャップ解消の取組（新項目） 3. 21

・新入生入学前に実施した小中連絡会の情報をもとに、保護者と連絡をとって、入学当初からサポート教室を活用（対象生徒2名）し、小学5年生から不登校兆候にあった生徒が、欠席することなく学校に登校できているケースもあった。保護者からの様々な要望に対して可能な限り対応し、小学校の時よりも登校する日数が増えた生徒も数名いる。

9 働き方改革の推進 2. 54 → 2. 72 評価B

○効率的・協働的な業務遂行、時間外勤務の削減 2. 55 → 2. 89

・教職員個々の超過勤務の縮減への意識を高めるために、教職員の長時間勤務の実態をグラフにし、提示をすることで見える化を図っている。

令和3年度の出張依頼総数は548件、令和4年度は1月末段階で633件の依頼となっており、昨年と比較すると、100件近く出張は増えている中、超過勤務時間は月あたりの平均値が昨年度より1時間減っており、職員の意識は高まっていると考えられる。

○業務改善の効果的な方策について共通理解 2. 53 → 2. 63

・各教職員の「日常の授業の在り方」や「生徒指導」、校務分掌に係る「事務作業」等について、負担を軽減するような具体策について、本年度も有効な情報の提供ができていない。アンケート調査等、タブレットの活用で集計等が軽減されているが実感できるのは担当の関係職員であるので、全職員が負担が軽減を実感できるような具体策はなかなか進んでいない。文書のペーパーレス化→印刷の必要が無くなるの実施については、まだ検討していく必要がある。

○定時退校、年休取得と会議等時間短縮の取組 2. 53 → 2. 61

・毎週月曜日を「ノ一部活動デー」「定時退庁日」と位置づけ、1年間実施するとともに、部活動においても小郡市部活動基本方針に則して、週に2日の休みを設けるなど実行している。また、校内研修や職員会議等も時間外に係ることはほとんど無かった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響（濃厚接触者の扱い等含む。）から、いつ誰が出勤停止になるかわからない状況でもあり

計画的な年休の取得などが難しい現状がある。

10 人権・同和教育の啓発推進 3. 37 → 3. 19 評価B

○人権の視点に立った温もりある教育活動 3. 43 → 3. 25

- ・「福岡県人権教育推進プラン」に沿った取組を進め「部落差別解消推進法」や「福岡県部落差別推進条例」等の研修及び人権を考える日を定期的に設定し、人権・部落問題学習の取組を行い、11月の人権学習保護者公開・学級分会を開く等、保護者啓発にも力を注いでいる。また、教室環境づくりと集団づくりに力を入れ、いじめ・不登校の予防と解消に努め、支え合う人間関係づくりに尽力している。

○日常的な人権課題について組織的な共有 3. 20 → 3. 11

- ・人権・同和教育を進める中で、教師自身の人権感覚・人権意識を高めるための計画的に校内研修を実施し、教師が隠れた人権カリキュラムを意識した上で、生徒一人ひとりを大切にし、差別・いじめを許さない集団づくりに努めている。

○生徒が自ら解決しようとする力の育成 3. 47 → 3. 21

- ・「差別を見抜き、差別を許さない、そして差別をなくそうとする」行動ができるような生徒を育成することを目標とし、「確かな人権感覚」を育てるためのカリキュラムの実施や人権に視点を充てた教材の積極的な活用等に取り組んでいる。

大項目	未来に向かう「心」の育成	後期評価		小郡市立小郡中学校	令和4年度 学校評価報告シート		
		3.34	B				
小項目		前期	後期	小項目の評価基準(例)	◎改善策		
1	子どもたちの「志」や「自律の心」を育むために、「いだく」(夢や願いをいだし、課題や目標を明らかにする)→「いどむ」(繰り返し目標に挑み、人ともに学びを深める)→「いかす」(学びを振り返り、成果と課題をいかして自ら学びを最適化する)の過程を大切に教育活動を進めている。	3.15	3.32	④ 進めている。 ③ どちらかといえば進めている。	◎子どもたちの「志」や「自律の心」を育むため「キャリアパスポート」の活用を図るとともに、学校の教育課程において、「いどむ」取組及び「生かす」取組を意図的に位置づけ、意識的に取組を進めていく。そのための学校行事計画や各教科の単元計画において明確に記載するなどの工夫を行う。		
	[担当者] 清水恵子	B	B	② あまり進めていない。 ① 進めていない。			
	「いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応」について、子どもの声を丁寧に聞き取り、教職員・専門家・保護者等をつないだ組織的な対応を行っている。	3.33	3.39	④ 行っている。 ③ どちらかといえば行っている。		◎いじめや不登校等、生徒指導に係る対応について、不登校予防診断チェックリストなど、根拠に基づく生徒の実態把握の実施及び教職員間の情報共有の在り方に係る研修の実施。併せて、不登校の未然防止につながる専門家等との連携の在り方及び保護者への啓発等の充実を図るための取組の構築。	
	[担当者] 山内杏城	B	B	② あまり行っていない。 ① 行っていない。			
	生徒指導の機能(自己決定・共感的人間関係・自己存在感)を生かした授業・指導を行っている。	3.26	3.31	④ 行っている。 ③ どちらかといえば行っている。			◎生徒指導提要の改訂に伴い、自己決定・共感的人間関係・自己存在感を生かした日常的な授業・指導の在り方について教職員の理解を深める研修を実施する。
	[担当者] 池田佳太郎	B	B	② あまり行っていない。 ① 行っていない。			
大項目	生きて働く「知」の育成	後期評価		小郡市立小郡中学校	令和4年度 学校評価報告シート		
		3.12	B				
2	社会の変化に対応できる「真の学力」を育むために、「学力向上プラン」を共通実践し、「主体的・対話的で深い学び」による授業を日常化している。	2.96	3.07	④ 日常化している。 ③ どちらかといえば日常化している。	◎研究主題「主体性をもって、協働しながら課題を解決できる生徒の育成」の変更の検討、及び具体的な授業の取組についての校内研修の進め方について再度検討するとともに、より効果的な方策の協議を実施する。		
	[担当者] 池田佳太郎	B	B	② あまり日常化していない。 ① 日常化していない。			
	子どもの基礎学力を高め「低位層」の子どもたちを減らすため、習熟・徹底のための日常的・継続的な取組を確実にしている。	3.04	3.21	④ 行っている。 ③ どちらかといえば行っている。		◎生徒個別の各種学力調査結果の活用さらなる活性化を図るとともに、「低位層」にある生徒への日常的・継続的で持続可能かつ有効な手立てとなる方策を検討し、充実化を図る。	
	[担当者] 池田佳太郎	B	B	② あまり行っていない。 ① 行っていない。			
	各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学年の取組等を相互に関連付けた指導を行っている。	2.96	3.07	④ 行っている。 ③ どちらかといえば行っている。			◎新型コロナウイルス感染対策が軽減化することの見通しを持って道徳、総合的な学習、特別活動、学年の取組等の目的を明確にし、相互の関連性を職員間で十分に理解するための時間の確保を検討していく。
	[担当者] 清水恵子	B	B	② あまり行っていない。 ① 行っていない。			

4≥A>3. 5≥B>2. 5≥C>1. 5≥D

大項目	健康で逞しい「体」の育成	後期評価		小郡市立小郡中学校	令和4年度 学校評価報告シート	
		3.26	B			
小項目		前期	後期	小項目の評価基準(例)	◎改善策	
3	「体力向上プラン」を共通理解・共通実践し、子どもたちの基礎体力向上や運動への意識づくり・態度づくりに取り組んでいる。	3.18	3.26	④ 取り組んでいる。	◎体力向上プランをもとに関連する教科や部活動における基礎体力向上に向けた取組について、関係教職員が共通理解を図り、実践可能な取組を検討する。	
		B	B	③ どちらかといえば取り組んでいる。		
	〔担当者〕 藤上健一	B	B	② あまり取り組んでいない。		
				① 取り組んでいない。		
	子どもたちの「身を守る力」を育むために、地域と連携して「防災」「安全」「健康」をテーマに計画的に取り組んでいる。	2.89	3.11	④ 取り組んでいる。		◎校区内の危険箇所について、保護者・地域との連携を基に情報収集に努め、防災マップ等の修正を適宜行う。 ◎警察の交通安全指導教室や防災訓練における消防署等の関係機関との連携を継続し、地域を巻き込んだ訓練の在り方について検討する。
		B	B	③ どちらかといえば取り組んでいる。		
〔担当者〕 山内壱城	B	B	② あまり取り組んでいない。			
			① 取り組んでいない。			
生活ノートの取組や学校生活アンケート等を実施し、生徒の生活習慣等を把握し、改善が必要な生徒については、教育相談等で指導をしている。	3.31	3.53	④ 取り組んでいる。	◎基本的な生活習慣等に関するアンケート結果等について、保護者に還元することを継続し、家庭での生活習慣等に関する課題意識を高めるとともに協力・連携の充実を図る。		
	B	A	③ どちらかといえば取り組んでいる。			
〔担当者〕 山内壱城	B	A	② あまり取り組んでいない。			
			① 取り組んでいない。			
大項目	地域とともにある学校づくり	後期評価				
		3.18	B			
4	学校運営協議会との信頼関係を基盤に地域・保護者との連携協働による教育活動について協議を深め、教職員間でも情報を共有している。	3.19	3.18	④ 共有している。	◎学校運営協議会委員との連携のさらなる充実を図るため、学校が抱える課題等をわかりやすく端的に情報提供するとともに、熟議可能な雰囲気作りに尽力する。	
		B	B	③ どちらかといえば共有している。		
	〔担当者〕 小田哲也	B	B	② あまり共有していない。		
				① 共有していない。		
	子どもたちの「ふるさと愛」を育むために、地域・校区のよさ(「人・もの・こと」)を生かした体験的な学びをカリキュラムに位置づけて実践している。	2.81	2.93	④ 実践している。		◎子どもたちの「ふるさと」に対する意識の高揚を図るために、教科の枠を超えて関連する取組をまとめた「小郡中ふるさとカリキュラム」の見直しと充実化を図る。
		B	B	③ どちらかといえば実践している。		
〔担当者〕 清水恵子	B	B	② あまり実践していない。			
			① 実践していない。			
学校で実施している「ふるさとクリーン活動」の意義や目的を生徒にわかるように意識するように促すと共に、地域行事やボランティア活動に積極的に参加するように促している。	3.52	3.52	④ できている。	◎地域の方達との連携による「小郡中学校ふるさとクリーン活動」の継続的な実施とPTA主催の「PTA美化作業」への地域の方々の参加要請等、取組の活性化を図る。		
	A	A	③ どちらかといえばできている。			
〔担当者〕 田中ゆかり	A	A	② あまりできていない。			
			① できていない。			

4≥A>3. 5≥B>2. 5≥C>1. 5≥D

大項目	ICT活用力の育成	後期評価		小郡市立小郡中学校	令和4年度 学校評価報告シート
		3.00	B		
小項目		前期	後期	小項目の評価基準(例)	◎改善策
5	タブレットを活用して学習を行っている。	2.64	2.90	④ ほぼ毎日活用している。	◎個々の教職員によって活用頻度に差があるため、校内研究との関連を図った「授業におけるタブレットの活用場面」等について検討するとともに、簡潔で効果的な活用方法等の周知を図る。
	[担当者] 松島 光	B	B	③ 週3回以上活用している。	
				② 週1回以上活用している。	
				① 月1回以上活用している。	
	教育課程に位置づけた情報モラル教育を計画的に行っている。	2.53	2.72	④ 行っている。	◎技術・家庭科の「技術分野」における情報モラル教育を引き続き実施するとともに、そのことについて全教職員が共通理解を図る場を設定していく。
	[担当者] 松島 光	B	B	③ どちらかといえば行っている。	
			② あまり行っていない。		
キーボードのローマ字打ちでのタイピングが学年の目標レベルに達している。(1分間に打てる文字数・小学校中学年30字以上、高学年40字以上、中学生50字以上)	3.67	3.64	④ 学級の8割程度が目標レベルに達している。	◎一年生でも小学生の時に身につけてきたタイピングスキルの成果が見られており、次年度はタイピングスキルに関する評価項目については見直しを図っていく。	
[担当者] 松島 光	A	A	③ 学級の6割程度が目標レベルに達している。		
			② 学級の4割程度が目標レベルに達している。		
			① 学級の2割以下が目標レベルに達している。		
大項目	個に応じた学びの充実	後期評価			
		3.13	B		
6	学力保障・個性伸長のため、個別学習やグループ学習、繰り返し学習、習熟の程度に応じた学習、課題選択学習など、「個に応じた学び」(個別最適な学び)を一人一人の子どもの特性や教育的ニーズ、興味・関心に応じ計画的に行っている。	2.96	3.15	④ 行っている。	◎生徒の学力に関する取組の頻度、学習環境等についてアンケート等による実態把握を実施するとともに、「個別最適な学び」につながる取組の在り方について検討する。
	[担当者] 下川優子	B	B	③ どちらかといえば行っている。	
				② あまり行っていない。	
	特別支援教育に関し、「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者と教職員、専門機関をつないだ丁寧な取組を組織的にしている。	3.10	3.20	④ 行っている。	◎特別な支援を必要とする生徒の「個別の支援計画」及び「個別の指導計画」の確実な作成と必要に応じた見直しを行うとともに、関係職員及び関係生徒保護者との信頼関係構築のための密な連携を促進する。
	[担当者] 下川優子	B	B	③ どちらかといえば行っている。	
				② あまり行っていない。	
補助簿等を活用し、子どものつまづきや習熟の程度に応じた学習指導を行うとともに、自身の学習指導を評価し、改善を図るなど、指導と評価の一体化を図っている。	3.04	3.07	④ 行っている。	◎日常的な授業における生徒の変容等の記録を丁寧にを行うとともに、校内に於いて効果をあげている教職員の授業における「コツ」や「意識していること」等について交流する場を設ける。	
[担当者] 清水恵子	B	B	③ どちらかといえば行っている。		
			② あまり行っていない。		
			① 行っていない。		

4≥A>3. 5≥B>2. 5≥C>1. 5≥D

大項目	教職員の資質向上の推進	後期評価		小郡市立小郡中学校	令和4年度 学校評価報告シート	
		3.13	B			
小項目		前期	後期	小項目の評価基準(例)	◎改善策	
7	学力調査結果等をもとに指導上の課題を全教職員で協議・共有して、日常授業の改善を行っている。	3.07	3.07	④ 行っている。	◎次年度も、校内研修推進委員会を中心に、学力調査結果等で確認できた課題の改善策について練り上げ、全教職員への情報提供とあわせて意見交換等を活性化させる。 ◎校内研修推進委員会を中心に、最新の教育動向に関する情報の収集に努め、個々の教職員の資質向上のための情報提供や支援を実施できるよう努めていく。	
		B	B	③ どちらかといえば行っている。		
	〔担当者〕 池田佳太郎					② あまり行っていない。
	組織的な共同体制のもとに研修を行い、ICT教育をはじめとする教育動向への理解を深め、教職員としての資質を高めている。		3.07	3.11		④ 高めている。
			B	B		③ どちらかといえば高めている。
	〔担当者〕 池田佳太郎					② あまり高めていない。
	校内研修が計画的に位置付けられ、組織的な人材育成を図っている		3.29	3.25		④ 図っている。
			B	B		③ どちらかといえば図っている。
	〔担当者〕 池田佳太郎					② あまり図っていない。
				① 図っていない。		
大項目	小中9年間を見通した指導体制の充実	後期評価				
		3.14	B			
8	小中学校間で児童生徒の学力実態・生活実態・家庭状況等を共通理解し、統一した方針や計画を基に授業改善や生徒指導を行っている。	3.04	3.11	④ 行っている。	◎小中学校間で児童生徒の実態や家庭状況等について共通理解を図る場の設定を継続して実施し、指導方法や指導内容について効果が上がった取組を共有する場を設定する。 ◎小学校からの情報をもとに、生徒の学習・生活の状況の変化に応じて、効果ある指導の在り方について適宜修正を実施する。	
		B	B	③ どちらかといえば行っている。		
	〔担当者〕 仲野公美					② あまり行っていない。
	(中学校)小学校での学習・生活の状況を踏まえた指導の工夫を行っている。		2.96	3.08		④ あてはまる。
			B	B		③ どちらかといえばあてはまる。
	〔担当者〕 仲野公美					② あまりあてはまらない。
	特別な支援を必要とする生徒について、中1ギャップ解消のための小中連携を図っている。		3.07	3.21		④ 取り組んでいる。
			B	B		③ どちらかといえば取り組んでいる。
	〔担当者〕 田中ゆかり					② あまり取り組んでいない。
				① 取り組んでいない。		

4≥A>3. 5≥B>2. 5≥C>1. 5≥D

大項目	働き方改革の推進	後期評価		小郡市立小郡中学校	令和4年度 学校評価報告シート		
		2.72	B				
小項目		前期	後期	小項目の評価基準(例)	◎改善策		
9	効率的・協働的な業務遂行に努め、時間外勤務の削減に努めている。	2.78	2.89	④ そう思う。	◎個々の教職員が効率的・協働的な業務遂行に努め、時間外勤務の削減に努めることができるような教職員の雰囲気作り及び校内体制の改善を継続的に進めていく。		
		B	B	③ どちらかといえばそう思う。			
	〔担当者〕 小田哲也		B	B		② あまり思わない。	
	勤務の状況や業務改善の効果的な方策について教職員間で組織的に協議し、共通理解している。		2.75	2.63		④ そう思う。	◎運営委員会を中心に勤務状況や業務改善に係る効果的な方策等の情報収集に努め、実施可能な取組等を試験的な導入により取捨選択できるような体制の構築を進めていく。
	B	B	③ どちらかといえばそう思う。				
	〔担当者〕 小田哲也		B	B		② あまり思わない。	
月2回の定時退校に取り組み、計画的に年休を取得している。また、会議研修および、分掌部会の時間短縮に努めている。		2.56	2.61	④ 取り組んでいる。	◎月2回の定時退校の位置づけを継続するとともに、定時退校日、当日に向けた教職員の準備についてルーティン化を図る。 ◎会議研修等の時間短縮については、継続して取り組んでいく。		
B	B	③ どちらかといえば取り組んでいる。					
〔担当者〕 小田哲也		B	B	② あまり取り組んでいない。			
		B	B	① 取り組んでいない。			
大項目	人権・同和教育の啓発推進	後期評価					
		3.19	B				
10	「つながる心」や「関わり合い」を大事にする人権の視点に立った温もりある教育活動を学校教育全体で進めている。	3.33	3.25	④ 進めている。	◎「つながる心」や「関わり合い」を大事にする意識を育むため、各教育活動における「目的」について人権の視点の位置づけ等を明確に示すことを全職員で確認する場を設ける。		
		B	B	③ どちらかといえば進めている。			
	〔担当者〕 國分律子		B	B		② あまり進めていない。	
	ICT教育を進めていく中で生じてくる人権課題をはじめ、子どもを取り巻く日常的な人権課題について校内で組織的に共有している。		3.11	3.11		④ 共有している。	◎子どもを取り巻く日常的な人権課題についての情報収集に努め、適宜、全教職員による共通理解を図るとともに、教職員間の丁寧な情報交換ができる体制を構築していく。
	B	B	③ どちらかといえば共有している。				
	〔担当者〕 松島 光		B	B		② あまり進めていない。	
		B	B	① 共有していない。			
生徒が日常生活における人権侵害や差別的事象等人権に関わる問題に気付き、自ら解決しようとする力を育てている。		3.33	3.21	④ 育てている。	◎現在の人権課題に関する情報収集に努め、教職員への情報提供及び人権学習計画段階における意図的な位置づけ等、適宜、学習内容の充実を図る。		
B	B	③ どちらかといえば育てている。					
〔担当者〕 仲野公美		B	B	② あまり育てていない。			
		B	B	① 育てていない。			

4≥A>3. 5≥B>2. 5≥C>1. 5≥D